

東京都地方独立行政法人評価委員会
平成25年度第6回公立大学分科会 議事概要

1 日 時

平成26年3月13日（木） 10時00分から11時00分まで

2 場 所

東京都庁第一本庁舎 42階北側特別会議室 B

3 出席者

吉武分科会長、池本委員、梅田委員、松山委員（分科会長を除き50音順）

4 議 題

（1）報告事項

- ①公立大学法人首都大学東京 平成26年度 年度計画（案）について
- ②平成26年度前期 公立大学分科会スケジュールについて

（2）その他

5 議事概要

- （1）公立大学法人首都大学東京 平成26年度 年度計画（案）について**
法人から、公立大学法人首都大学東京 平成26年度 年度計画（案）について、首都大、産技大、産技高専の学校ごとに、教育、研究、社会貢献の分野別に主な取組を説明。あわせて、平成24年度業務実績評価において対応報告を求めた事項について、年度計画（案）にどう反映されているかを説明。

【委員意見、質疑】

- ・ URA (University Research Administrator) は既に配置されているのか。また、URA は日本国内では職としてどう設計するか、キャリアパスをどう設計するかなど、まだ確立していない状況ではあるが、大学にとって必要な人材であるという認識が広がってきている。ぜひ力をいれていただきたい。
- (法人回答) 来年度から、URA 室という新たな組織を設け URA を雇用し、教員のサポートを総合的に実施する予定である。

- ・ 産技高専に科研費を申請して採択されなかった研究者に対し、研究が継続できるよう金銭的なバックアップをする仕組みがあるか。また、そのような仕組みがあるとよりよい。

→ (法人回答) 産技高専に関しては、まず若手教員に研究費獲得について積極的に申請してもらうために申請書作成に関する相談等を行う「科研費申請支援」を実施する予定である。首都大においては金銭的なバックアップを仕組みがある。

- ・ 大学院博士課程の進路について、各研究科に任せることも1つの考え方であるとは思いますが、進路指導について大学として力をいれてもらいたい。進路の道筋がはっきりしてくれば、博士課程まで進む学生の増加が期待される。また、ポスドクインターンシップ制度など、大学側が博士課程卒の学生の採用につながるような働きかけを企業に対してすることも大切である。

→ (法人回答) 博士課程の進路指導については、今後は本学のキャリア支援課において総合的にサポートする体制を整えてはどうかといった検討を重ねているところであり、具体化できるところから実施したいと考えている。

(2) 平成26年度前期 公立大学分科会スケジュールについて

事務局から、平成26年度前期の公立大学分科会スケジュールについて説明。